

令和元年6月4日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13341

研究課題名（和文）江戸幕藩体制の計量分析

研究課題名（英文）Quantitative Analysis of Edo Feudal Lord System

研究代表者

久米 郁男（KUME, IKUO）

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：30195523

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、江戸時代における大名家の「統治体制」の成立を、大名家が大名家個人の「家」から、家臣団がそれぞれの分限にしたがって帰属する「公的」な共同体たる「御家」へといたる変化と捉えて、そのプロセスを実証的に解明し、その意義を検討することを目的とし、そのために江戸諸大名に関する既存の歴史的研究を利用したデータベースを構築した。そのデータベースには、江戸大名3576名について、藩名、石高、生年、没年、家督相続年月、退任年月、退任理由などが含まれており、それを利用して藩主在任期間、藩主交替の態様などについてより広く計量分析を行い、大名家の統治体制の改革が、大名家の存続に影響を与えたことを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代の発展途上国において、その国の経済発展や政治的安定に重要である効率的で民主的な国家をどのようにすれば打ち立てられるかは政治学の世界にとどまらない重要な関心となっている。ヨーロッパにおける政治発展にその手がかりを求める研究は以前から存在してきたが、近年、データを用いて計量的にこの問いに答えようとする研究が欧米の政治学の世界で急速に発展してきた。しかし、そこではヨーロッパ特殊な要因へ注目がなされている。本研究は、日本の江戸期における大名家の統治体制の改革に注目することで、ヨーロッパの視点を越えたより一般的な視点からこの問題を検討する手がかりを与える研究として学術的、社会的意義が高い。

研究成果の概要（英文）：This study tries to analyze the development of governance system of the feudal lords or daimyos in the Edo period. A lot of historical studies have shown that their governance system has been transformed from the "patrimonial" system to the "bureaucratic" system. This is the process of rationalization of the daimyo governance system. We analyzed this transformation and its impact on the stability of the daimyo's domain based on the quantitative analysis of the daimyo data, which we have created in this project.

研究分野：政治学

キーワード：江戸幕藩体制 御家騒動 統治体制

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、代表者と2人の分担者が、江戸幕府期の諸藩における統治体制の発展についての萌芽的な研究関心を共有していることを偶然知ったことに端を発する。代表者は、実証的な政治分析方法に関する概説書『原因を推論する』の質的研究方法に関する章の比較歴史分析を扱う部分を執筆するために、取り上げるべき文献を渉猟する中で、いわゆる **Global History** や **Big History** といわれるマクロな歴史分析の業績を読み込みその方法論的な意義を検討してきた。そこで目を引いたのは経済成長や政治制度の歴史的発展を、巨視的に分析すると同時に、そのマクロな仮説から引き出される観察可能な含意を中世や近世の教会文書や古文書などをデータ化することで計量分析により確認するという「新しい歴史分析」の登場であった (Blaydes & Chaney 2013, Kokkonen & Sundell 2014)。代表者は、江戸時代を対象に、この新しい研究アプローチに基づく研究を行うことを着想した。分担者である境家は、「政治体制変動の合理的メカニズム—幕藩体制崩壊の政治過程—」を発表して以来、さらに時代を遡り江戸期の大名家の統治体制に関心を持って研究を続けてきた。曾我は、クロスナショナルデータを駆使して各国の行政発展を計量分析によって特徴付けた『行政学』を公刊し、引き続きクロスセクション・タイムシリーズデータを用いて、各国の行政発展の歴史分析を続けるなかで上記研究発展に注目してきた。さらに、『日本の地方政治』において、都道府県の統治システム発展の計量分析を行って以来、このアプローチを歴史研究に応用することに関心を持ってきた。ここに、三者の共同により新規な萌芽的研究を、理論的・方法論的基礎付をもって実施する目途を得たことが応募の背景である。

### 2. 研究の目的

本研究は、江戸時代における大名家の「統治体制」の成立を、大名家が大名個人の「家」から、家臣団がそれぞれの分限にしたがって帰属する「公的」な共同体たる「御家」への変化と捉えて、そのプロセスを実証的に解明し、その意義を検討することを目的とした。第1に、統治体制の変化を、豊富な二次文献を利用して理論的に整理する。第2に、この経時的変化と、通時的な大名家間での差異を、独自に構築する大名データベースを利用し計量分析の手法を用いて実証的に分析する。第3に、上述の計量分析を進展させ、この変化をもたらしたメカニズムの解明を行う。さらに、大名家の統治体制の発展が江戸期の政治経済体制に与えた影響についての仮説構築を行い、本格的な研究の実施に備えることが目的であった。

### 3. 研究の方法

研究を進めるための方法は、以下の3つからなっている。

① 江戸時代における大名家の統治体制の発展について、蓄積されてきた歴史研究や地方史の成果を踏まえて統治体制の歴史的変遷と地域的差異を整理して類型化を行う。② 大名家の統治体制の特色を、先行研究を網羅的に利用しデータ化したクロスセクション時系列データを作成して、上記の類型化を手がかりに計量分析を行い統治体制発展のパターン認識を行う。③ 各大名を分析単位とする計量分析により、大名家の統治体制のあり方を規定した要因の因果分析を行う。

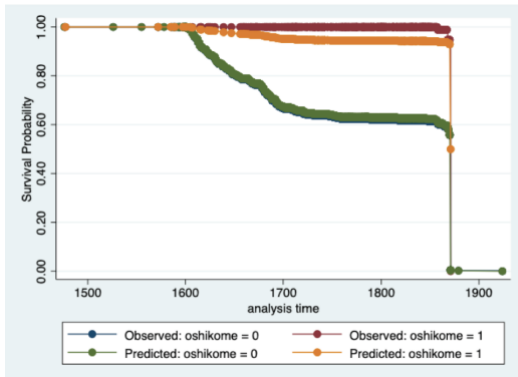
### 4. 研究成果

(1) 本研究は、挑戦的萌芽研究であり今後の本格的な研究を展望して、独自のデータベースを構築することが先ず重要な目標であった。最終的には、各大名家・諸藩の統治体制データの構築を行うための手がかりとして、工藤編『江戸時代全大名家事典』などの2次資料を利用してデータベースの作成を進め、江戸大名3576名について、家名、藩主名、藩名、石高、出自(父母)、出生地(判明しているもののみ)、生年、没年、家督相続年月、官位、官位叙任年、退任年月、退任理由、幕府要職、要職就任年を項目とするデータベースを完成させた。これと平行して、御家騒動の様々な類型(福田2005)の背後にある因果メカニズムに注目し、先行研究に基づく御家騒動データベースを構築した。

(2) 上記データベースを利用して、各藩における統治体制の態様と変化を計量分析に基づき解明する努力を行った。

第1の知見は、江戸時代前期においては藩主の隠居後の余生が有意に短いのにに対して、後期では隠居後の余生が長いこと、後期の藩主の在職期間が前期に比べて有意に短くなっていること、隠居による藩主の若返りの度合いが後期では有意に小さいことであった。この変化は、隠居という制度が徐々に統治体制の改革の結果異なる利用に供されたことを示唆する。

第2の知見は、隠居が御家の存続に与える影響に関する。本研究は当初、家臣団からの藩政改革の動きとしての「君主押し込め」に注目し、その様な「改革」が御家の存続に貢献するのではないかという仮説を立てていた。しかし、御家騒動に関するデータ整理をする中で、「君主押し込め」として観察されないながら、実質的にはその様な改革努力がなされた可能性を見出すことによるバイアスを意識することになった。そこで、藩主の隠居がなされ嫡男以外が相続した場合を「主君押し込め」と同等の改革として操作的に定義し、それが御家存続確率に与える影響をコックス比例ハザードモデルにより分析した。その結果が、下記のグラフであり、その様な改革は有意に御家の存続に貢献したことが確認された。この成果に基づく論文は現在投稿準備中であり、また来年度の学会報告を予定している。



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：曾我謙悟

ローマ字氏名：Soga Kengo

所属研究機関名：京都大学

部局名：公共政策大学院

職名：教授

研究者番号（8桁）：60261947

研究分担者氏名：境家史郎

ローマ字氏名：Sakaiya Shiro

所属研究機関名：首都大学東京

部局名：社会科学研究科

職名：准教授

研究者番号（8桁）：70568419

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。